

たきだ こう  
滝田 豪法学部 教授  
修士(法学)／京都大学ホームページ URL  
なし

## 主な研究業績

- 滝田豪「日中関係の分析枠組」『産大法学』50(1・2)、2017年1月
- 滝田豪「中国の国家体制とグラデーション構造」渡辺信一郎・西村成雄編『中国の国家体制をどうみるか』汲古書院、2017年

キーワード

中国政治、政治学

## 研究テーマ Research theme

## 中国政治の研究

## 概要 Overview

## 1. 中国における近代国家建設の特徴。

近代国家のモデルは西洋で生まれましたが、歴史や地理などの前提条件が異なる西洋と中国では、その建設のあり方は同じではありません。その異同を明らかにするとともに、中国における国家や政治の特徴の解明にもつなげたいと考えます。

## 2. 中国農村の政治。

中国はいまだ国民の半数以上が農村出身者であり、それは長期間にわたり変わらないと考えられます。したがって、農村の理解なくして中国の特徴を解明することはできません。具体的には、農村における近代国家組織の動態、近年の村長直接選挙、あるいは貧困など農村社会問題全般、に関心を持っています。

## 3. 中国知識人の政治論。

とくに、1990年代末から行われた「自由主義」対「新左派」の論争、自由主義や民主主義、市民社会論、あるいはポストモダニズムなど、西洋で生まれた思想や理論を、中国の知識人がどのように理解し論じているかを明らかにし、そこから中国政治の特徴の解明につなげたいと考えます。

## 4. 中国政治の動向の現状分析。

とりわけ習近平政権の成立以降、新しい動向が生まれており、それらに対する理解を進める必要があります。

- (1) 制度化が進められてきたとされる中国政治の動向の将来。習近平は江沢民・胡錦濤と比較して権力の集中を行いました。また2期10年とされてきた任期を超えて継続する可能性も取り沙汰されています。これらが制度化を破壊しているのか否かを検討します。
- (2) 反腐敗運動。習近平政権の国内政策で最も顕著なのが「反腐敗闘争」です。習近平への権力集中にも貢献したとされるこの政策について総合的な検討を行います。
- (3) 外交と日中関係。習近平政権成立直前に行われた尖閣諸島国有化以降顕著に悪化した日中関係は速度の遅い回復傾向にありますが、その動向を把握します。また習近平政権下でとくに対外的な積極姿勢が目立つようになり、米国との関係も複雑化しており、その動向を把握します。

## 応用分野 Application areas

研究成果をお読みいただくことで、中国理解に役立てていただけたと思います。